

BOHNANZA

ボーンザ

Uwe Rosenberg 作

人数：3～5人
年齢：12歳以上
所要時間：45分

ゲームの目的

各プレイヤーは自分の畑で栽培した豆を商品として、できる限り多くの収入になるように売ります。一つの畑で同じ種類の豆がたくさん収穫されればされるほど、その豆を売ったときの収入も多くなります。しかしながら残念なことに、プレイヤーはしばしば、豆の種類が多くなりすぎて、安値で売りさばかなければならない状況に追い込まれてしまうこともあります。時には、収益が全くないこともあり得るでしょう。ゲームの目的は、豆の取引を通じてもっとも多くのターラー（訳注：このゲームでの通貨です）を稼ぐことにあります。

用具

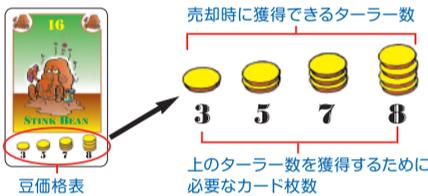
・豆カード：104枚 ・3つめの豆畑カード：6枚 ・ルールブック：1（本書）

【豆カード】

豆カードには8つの種類があり、種類ごとに枚数が異なります。その種類のカードが全部で何枚あるかは、それぞれの豆カードのイラスト上に数字で示されています。



全ての豆カードの下側には、「豆価格表」が書かれています。価格表には、プレイヤーがその豆を売却したときに、何ターラー獲得するかが示されています。そこに書かれている数値は、1～4ターラー（例外：GARDEN BEANは2～3ターラー）獲得するためには、同じ種類の豆カードが豆畑に何枚なければならないかを示しています。4ターラー獲得するために必要な枚数以上の豆カードを集めても意味はありません。



【例1】
左図の豆カードの場合は、3または4枚を売ることで1ターラー獲得。5もしくは6枚なら2ターラー、7枚で3ターラー、8枚（以上）では4ターラーを獲得できる。

【豆畑】

- ・ゲームの開始時には、各プレイヤーは自分の前に2つまで、豆カードをプレイする列を持っています。これらの列のことを、豆畑と呼ぶことにします。
- ・各プレイヤーは、ゲーム中に1回限り3つめの豆畑を購入することができます。これを持てば、その後ゲーム終了まで3つの豆畑を持つことができるようになります。
- ・3つめの豆畑の価格は3ターラーで、これは獲得したターラーを裏返して捨てることによって支払います。
- ・「3つめの豆畑」カードを取り、自分の前に他のプレイヤーによく見えるように置いておきます。



〈用具〉

・豆カード：104枚
・3つめの豆畑カード：6枚
・ルール（本書）

〈豆カードの各枚数〉

- 20枚：BLUE BEAN
- 18枚：CHILI BEAN
- 16枚：STINK BEAN
- 14枚：GREEN BEAN
- 12枚：SOY BEAN
- 10枚：BLACK-EYED BEAN
- 8枚：RED BEAN
- 6枚：GARDEN BEAN

〈ターラー〉

豆カードの裏側には、ターラーを表すコインが1枚描かれています。豆売却時に獲得したターラーの数と同じ枚数の豆カードを裏向きに置くことで、獲得したターラー数を示します。
（「豆を売る（処分する）」項目参照）



準備

- ・5枚の「3つ目の豆畑」カードは、さしあたって箱の中に入れておいてください。
- ・豆カードはよく混ぜて、各プレイヤーに5枚ずつ配ります。

【特に注意!】

ゲーム中、プレイヤーの手札のカードの順序は、いかなる時であっても変えてはなりません。他のカードゲームで行うような、手札のカードの並び替えをしてはいけません。

- ▶配られたカードは以下のように取り扱ってください。
- カードを配られたままの順で、手札として持ち、常に一番手前の（先に配られた）カードからプレイします。
- 新たに手札となるカードは、手札の一番最後（奥）に加えます。



- ・残りのカードはコインの描いてある方を上（すなわち裏向き）にして、テーブル中央に置き、これを山札にします。
- ・カードを配った人の左隣からプレイを開始します。その後は時計回りの順番にプレイします。

進行

手番(自分の番)のプレイヤーは以下の順序で4つの行動を行わなければなりません。

行動1:豆カードをプレイする

- ・手札の一番手前のカードを、自分の前にある豆畑にカードを表にして出します。つまり、新たに豆の列をはじめるか、すでにある同じ種類の豆の列につなげるかするのです。（例外：手札が1枚もない場合、この行動は行われません。直ちに行動2に移ります。）
- ・プレイヤーは更にもう1枚、手札の一番手前にあるカードを、自分のいずれかの豆畑に出すことができます（この2枚目のカードは義務ではありません）。
- ・1つの豆畑には常に1種類の豆しかプレイすることはできません。
- ・もし、自分の豆畑にプレイすることができない種類の豆をプレイしなければならない場合には、すでに豆畑にある豆（カード）を売る（または処分する）して、豆をプレイするための畑を作らなければなりません。

【補足】

ゲームの最初には、もちろん自分の豆畑には、何もありません(自分の前には、まだ表にしたカードが並べられてはいませんが)、架空の畑が2つあります。この1つにまず手札の一番手前のカードを置きます。さらにもう一枚、手札の1番手前のカードを畑に置くことができます。はじめに置いたカードと同じ豆のカードなら、同じ畑に並べ、違う種類ならもう1つの畑に置きます。その後の手番の最初には、すでに並べられている同じ種類の豆のカードなら、そこに続けて置けます。並んでいない種類のカードは、空いている畑に置くか、畑を空けて置くかします。

〈プレイヤーの4つの行動〉

- 行動1：豆カードをプレイする
- 行動2：交換と贈与
- 行動3：豆をまく
- 行動4：豆カードを引く

豆を売る(処分する)

豆を売りたい、もしくは売らなければならないプレイヤーは、どの豆を売るか選択します。そして、その畑にある豆カードの数と、その豆カードに示された豆価格表を比較します。獲得できるターラーと同じ枚数のカードを裏返し、ターラーの面を上にして自分の前に置きます。それ以外の豆カードは豆の描かれた面を表にして山札の横に捨てます。売却しても枚数不足で、1ターラーにすらならない場合は、この畑の豆を処分します。すべて豆の面を表にして捨て札にします。



[例2]

Green Beanが3枚あった場合は、1ターラーになります。プレイヤーは3枚のGreen Beanカードのうち1枚を裏返し、獲得したターラーとして自分の前に置きます。残りの2枚のGreen Beanカードは表向きのまま捨てます。捨てたカードは、分かりやすいように山札の横にまとめて置いてください。プレイヤーが獲得したターラーを示すカードは、それ以外のカードと混ぜないように分けておきます。

【注意!】

- ・2枚以上の豆カードが置かれている畑の豆を売却するとき、その畑の豆は全部まとめて売却しなくてはなりません。つまり、1枚だけ、あるいは一部の豆だけを売却することはできません。
- ・1枚のカードしか置かれていない畑の豆を売ることはできません。ただし、そのプレイヤーの全ての畑に1枚ずつ豆が置かれている場合には、捨て札とするカードをプレイヤーが自由に選ぶことができます。このカードは1ターラーにもなりません。

行動2: 交換と贈与

- ・手番プレイヤーは山札から2枚のカードをめくり、全員に見えるようにテーブルの上に表向きにして置きます。
- ・手番プレイヤーはこれらのカードをそのまま確保することができます。また、これらのカードを他のプレイヤーと交渉し、交換材料とすることもできます。
- ・手番プレイヤーは交渉の際、手札のカードも交換材料に加えて出すことができます。
- ・手番以外のプレイヤーは、自分の手札のみが交換材料となります。
- ・1枚のカードに対して複数のカードを提案したり、また要求したりして構いません。
- ・全てのプレイヤーは、手番プレイヤーに対してのみ、交換を行うことができます。手番プレイヤーが関与しない交換はできません。



[例3]

めくられたカードはSoy Bean®とGarden Bean®でした。このプレイヤーは、自分の畑にRed Bean®とBlack-eyed Bean®を植えていたので、これらのカードは不要でした。そこで彼は、他のプレイヤーに尋ねます。「誰か、この豆がほしい人はいないか? できればこのSoy Bean®とRed Bean®とを交換してほしいのだけれども。」さらに続けて「よし、ではこのめくられたGarden Bean®に手札のBlue Bean®をつけて、Red Bean®と交換してくれないか?」

【注意!】

プレイヤーは手札のどの位置にあるカードでも、交換材料とすることができます。しかし、交換の際でも、手札の順番を変えてはならないのはもちろんです。手札の交換カードは、交換が決まった時点で、手札から抜きます。提案するときに抜いてはいけません。

- ・交換したカードは手札の中には入れません。畑に置いてあるカードとは区別して、プレイヤーの前に置いておきます。また、これらのカードを再び交換に使うことはできません。誰も交換しなくなったら、この行動は終了します。
- ・この【行動2】の間、全てのプレイヤーは豆カードを贈与することもできます。手番プレイヤーは、手札と山札からめくられたカードを贈与することができます。それ以外のプレイヤーは手札のみ、手番プレイヤーに対して贈与することができます。贈与は、必ずしも受け取らなければならないものではありません。

行動3: 豆をまく

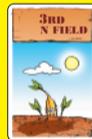
- ・【行動2】で、交換で獲得した全ての豆カード(手番プレイヤーだけでなく、他のプレイヤーも交換で得た豆カードがあればそれらすべて)をそれぞれ自分の畑に置きます。
- ・また、手番プレイヤーが山札からめくられたカードのうち、確保することにした、もしくは他のプレイヤーに渡すことができなかった1枚もしくは2枚のカードも、自分の畑に置かなければなりません。それができない場合には、それらを置くために、まず豆を強制的に売らなければなりません(または処分する)。

行動4: 豆カードを引く

- ・手番プレイヤーは1枚ずつ3枚のカードを山札から引いて、手札に加えます。
- ・引いたカードはカードを引いた順番に手札の後ろに加えていかなければなりません。
- ・このあと、手番が左隣のプレイヤーに移り、最初から4つの行動を行います。

それ以外の行動:

- ・いつでも(他プレイヤーの手番であっても)、自分の畑の豆を売ることができます。
- ・また、3番目の豆畑をいつでも買うことができます。1人のプレイヤーが持てる畑の数は、3つまでです。4つめの畑は買えません。
- ・また、プレイヤーは他のプレイヤーに対して、いつでも何らかの約束をすることができます。ただし、必ずしも守らなければならないわけではありません。



【3つめの豆畑】
3ターラーで購入できる。
この上に豆カードを置いていきます。

ゲームの終了

- ・山札のカードがなくなる度に表向きになっている捨て札の山のカードをよく混ぜて、新たな山札とします。
- ・3回目の山札がなくなったら、直ちにゲーム終了です。
- ・この時点で、全プレイヤーは自分の畑の豆を売って、ターラーに変えることができます。
- ・手札のカードは何の意味も持ちません。
- ・もっとも多くのターラーを獲得したプレイヤーが勝者となります。

ヴァリエーション

- ・3人でプレイする場合には、3人とも最初から3つ畑を持ってプレイすることをお勧めします。
- ・また4人でプレイする場合には、3番目の豆畑の価格を2ターラーにするとよいでしょう。

■ルール問い合わせ先



メビウス ゲームズ
東京都文京区後楽1-1-15 梅澤ビル5階
Tel. 03-3815-5956 Fax. 03-3815-7956

<http://www.mobius-games.co.jp/>
shop@mobius-games.co.jp